



cafe通信 スノードロップ

NPO法人もの忘れカフェの仲間たちの
シンボルマーク「スノードロップ」

平成29年11月号

スノードロップの つ・ぶ・や・き・特集

暑かった夏を乗り越え、過ごしやすい秋が訪れました。

認知症疾患医療センター、NPO法人もの忘れカフェの仲間たちの活動も、
29年度の半期を迎え、日々変わらず、こつこつと取り組んでいます。

今号は、スノードロップのつぶやき特集と題して、

デイサービスセンターのスタッフたちが寄せた、

取り組みの中でのエピソードを皆様にお届けしたいと思います。

「つ」の出来事に、認知症の人の強さを感じ、

その言葉に私たちが勇気をもらい、次の一歩へと導かれています。

さあ、物語の世界へおすすすみください。

スノードロップのつばやき

物語

1

彼女流ジョーク

Aさん、Bさんと私（スタッフ）3人で、美容を話題に女子トークしている時、「Aさんは色が白くてうらやましいわ」と言つと、「家で引きこもってますから」とクールな表情でおっしゃった。「しまった！ 言われたくないことに触れてしまったのかもしれない……」と一瞬言葉に詰まった私を見て、フッフというモナリザのような笑顔を返してこられた。

言葉にこそならなかったが、私の焦る様子を横目に余裕の笑みだったのかもしれない。おそらく、「引きこもり」という言い方は、彼女流のジョークだったのであろうか。見た目よりもお強い方なのだろう。

気をまわし過ぎる私に「病気のことを意識しすぎだよ」と遠回しにたしなめられたような気がした。

物語

2

原稿にはない話

Cさんに、運営推進会議での取り組み発表をお願いした。昼休みから原稿をじっくりと見ておられ、いよいよその時が来た。

自己紹介から始まり「妻と二人で暮らして……」と話し出された。歩くことを毎日の日課にしているが、妻やその他の人の迷惑にならないように心がけていると自分が外出するときの話は続いた。その、「原稿にはない話」に区切りがついて、私から原稿を読んでほしいことを伝えるが、再び同じ話にと戻ってしまった。

あらかじめ考えた紹介文章の文字を追って、読むことはむずかしい一場面であったが、手に持たれた原稿をよく見てみると、担当されたテーマは「外出計画について」だった。

おそらくCさんは、原稿だけを読むのではなく、日頃の自身の暮らしを、テーマである外出につながるながら、原稿を読むつもりをされていたのだろう。

昼休み中の真剣な面持ちの理由がわかったような気がした。人前での緊張感高まる報告会、Cさんの「伝えたい」という気持ちの痛いほど伝わった時間だった。

物語 3

こころあたりが
ぬくもつなる

少しずつ意思疎通が難しくなっているDさんが、席を立ちトイレへと向かわれる途中に私が座るテーブルの横を通り過ぎた。

その直後に、振り返って戻ってこられ、「ここにいと、こころあたりが（胸を押さえて）ぬくもつなるわ。ははははは。」と胸を押さえながら笑顔で言われた。

突然の言葉に返す言葉は見つからなかったが、胸が熱くなったのは私の方だった。

物語 4

はい、タッチ

Eさんは、活動中は机に伏せ、周りの動きに関心のない様子。

タバコの付き添いに「緒させてもらおうと、1階エレベーター近くで園児の散歩に出会った。園児の列を無理やり横切り歩かれるのか、それとも全員が通り終わるまで待たれるのか？ 私の心はこの場面でどうされるのかと一瞬にして不安になった。

すると、Eさんは「はい、タッチ」とご機嫌の声で園児一人一人にハイタッチをされ、園児も喜んでタッチで返しているのだ。いつもは強面のEさんも「わははははは」と上機嫌。私も、本来のEさんを知ることができ、とてもハッピーになった。

物語 5

そんなこと
ないよ

Fさんとの時間。座っていることが難しく「席にもどううか」と声をかけても知らんぷり。やっと席に戻られてもまたすぐに立たれてしまう。

ノートを書いているスタッフの席へと行き、私が戻ろうかと言ってもダメなのに、別のスタッフが言う「ニコニコと戻られる。私の気持ちは、モヤモヤ。」

「私の言い方が悪いのか?! 私の事嫌い?」と思うことがあるわ」とそのスタッフに話していると、その場に一緒にいたFさん。すくさま「そんなことないよ」の声があがった。エッ!! ほんとに!! ありがとう!! と元気をいただけた。

スノードロップのつづき

物語
6そんなことは
せえへんぞ

Gさん「あんな、あんたらにはわからんやろうけど、わし、ちょっとわかるぞ。70代くらいになるとな、今まで当たり前に出てたことができんくなるんや。もうちょっと上になるとな、諦めもつくやろうけど出来たことが急にできなくなってみ？辛いで。それだな、出来る人がうらやましくなるんや。嫉妬やな」

この会話、事件ニュースにあった70歳の看護師が同僚に毒を飲ませた話題から始まったこと。「でも、そんなことはせえへんで」と締めくくるとGさんだった。

物語
7私もここが
気になる

物作りでちょうちんを作っている時、ハサミを入れる箇所にマジックで線を引き、そこを切ることになる。全員が切り終わることを確認して、次の絵を描く作業が始まった。

そのあとのほんのわずかな時間に、Iさんは、出来上がったはずのパーツの凹凸部分を切り取ってしまった。それを見ていたJさんも続いて「私もここが気になる」と言われ、バツサリ切られていた。絵を描いている途中、紙の形が四角でないことを不思議に思ったのでしよう、大胆な行動で苦笑してしまった。

物語
8

持っておこうか

外出での出来事。電車内でNさんは切符を財布に入れたが、ちゃんと持っているか、到着するまで財布を何回も確認されていた。自分で失くさないように確認していたと思う。

Oさんは、私のバッグを「持ってあげる」とすっかりバッグを持つてくださった。

Pさんは、私が切符を電車内に落としてしまうと、そのことを帰りまで覚えていて、帰りの電車で「切符を失くさないよう持っておこうか」と声をかけられ、笑ってしまった。

目的地では、みなさん、紅葉したもみじをティッシュに丁寧に包んでいた。今の時間を包んでいる気がした。

物語9
ごきんことが
増えていく

Kさん。「ちょっと歩きたい」と
のことで、廊下を歩いていたら、
ため息が気になったので声をかけ
ると、ポツポツと「しんどいなー」
「できんことが増えていく」と言
われる。その時ちょうど展示室前
に差し掛かり、中をのぞいたとこ
ろ、「どうぞ入ってきてー」の声が
かかった。お茶とお菓子で、しば
し2人でポツポツと話しながら過
ごす。
グループ内では笑うことはあつ
てもあまり多く話されないーさん
が、こういった場所なら話をして
下さること。大切な時間であり、
必要な時間だと思った。

物語10
何をするんだ
無礼な

しさんが、目を閉じて休まれていた
Mさんの所に行かれ、肩を叩きながら
「どーしたん？しんどいんか？」と大き
く元気に声を掛けられる。Mさん「エ
ー？」「・・・」「眠いんだよ」と強
い口調になられた。ここで私が間に入る
が、しさんは、まだ肩を叩きながら「そ
うか、そうか」「がんばれよ！」と今度
はなんと、頭を手でポンポンとされる
自分の席に戻られた。もちろん、Mさ
ん「何をするんだー無礼な！」と。す
ぐさま私が、「すみません。私から伝
えておきますね」そして一呼吸おいて
「ここはいろんな人がいますね。どう
ですか？よい刺激になるんじゃないで
すか？」と笑顔で伝えてみた。たぶん
私の顔は引きつっていたと思う。する
とMさん「ハッハッハッ。そうですな」
と笑顔でこたえてくれた。

物語11
そついう時は
待つねん

「はじめてなんやで、みんなちゃ
んとしたれよ」と入職間もない私
のことをHさんが言ってくれた。
昼食後、お箸の片づけ容器がま
わってきたので、私も右にならえ
で隣へまわすと、「ちょっとまった
りーや。まだ食べてる人がいるや
んか。そついう時は待つねん」
とHさんから声が飛ぶ。
教えられていると実感した。

物語のまとめ

年齢も性別も関係ない。医療従
事者も介護従事者も関係ない。人
と人のお付き合いの中からうま
れてくるたくさんの言葉。
ここに、認知症の医療や介護に
携わる者にとって、とても大切な
こと、^〆感じる^〆が多く隠さ
れているのですね。

妻と共に歩む (10)

私の実践介護

藤本 寿雄



【排 泄 編】

介護の覚悟や知恵を先輩から

私がはじめて本人・家族交流会に参加したのは、診断から約3年経過し要介護1の認定を受けた2004年のことでした。まだ傍から見れば普通の状態で、何とか一人で留守番もできていた頃です。先輩の参加者の皆さんが介護の様子をいろいろと話してくれました。阪神淡路大震災の被害でマンションから転居した途端に病状が進み、自分がトイレに入っている間も目が離せなくなった…。徘徊や失禁、食事介助のことなど…。最初の頃は時間が経つとこんなことになるのか…と想像するだけで嫌な気分になったものですが、同時に介護の覚悟や知恵をいっぱい授けてもらいました。

紙パンツは早い時期から…

最初の失禁は2006年9月でした。私にはすごいショックでしたが、交流会での先輩の話からいつかは…という覚悟はできていましたので、いよいよこれからが介護本番と自分に気合を入れることができました。

2007年には、しばしば失禁するようになりましたが、出来るだけ以前と同じように生活させたかったので紙パンツは使用していませんでした。2009年9月からお泊りデイの時は紙パンツを使用することになり、2010年8月からは自宅でも就寝時は着用、2011年からは昼間も常用するようになりました。本人が恥ずかしいとかイヤだとかいうことがなければ、もっと早い時期から使用

していたら、本人も私もゆっくり寝られたかなと、今になって思い返しています。

私の失敗を参考に…

いずれは失禁が始まると思われるので、ケアシート（シーツの下に敷く防水シート）は早い目に準備・使用を始めたらいと思います。私はこのタイミングを逃がしたので、ベッドマットがシミだらけになってしまいました。

2006年夏ごろ、トイレに行く回数が異様に多いので排尿抑制剤の服用を始めました。この薬が効きすぎたのか、2007年6月に便秘と排尿ができなくなり、洗腸・導尿を施され、これを屈辱と感じたようで大パニックに陥りました。今思うと、トイレに盛んに行きたがったのは、必ずしも尿意・便意があったからではなく、何をしたらいいかわからないので、トイレにでも行くかということだったのかもしれませんが。注意深く観察して、実際に排尿があったかどうかを確認していたら薬の服用はしなかったかもしれません。私の失敗を参考にしていただけたらと思います。

編集後記 ~ monowasure ~

今号では、毎日私たちに届けられる小さな出来事をまとめてみました。その言葉を聞き流すのか、心にとどめるのかは私たち次第。頑張らなければいけません。本人たちの言葉や想いは、いつも身近にある、ということのを今一度確かめて、その呼びかけや問いかけをしっかりと受け取ることができる自分でいたいですね。

～最近ではがんばって言わないほうがいいなんて聞いたわ。なんか気に入らないわね。わたしは言うわよ。がんばらないさいよ、死ぬ気でがんばりなさいよ。血吐くまでがんばりなさいよ。その先に見えてくるものがあるんだから～ by リトルミイ

